



2022.12.26

園長だより NO84

冬の到来、寒さも一段と厳しくなりました。年の瀬のこの時期、気ぜわしい毎日ですが少々ゆとりを持って生活していきたいものです。

子どもたちの劇・・ 保育士の視点

12月17日に5歳児の劇の会を行いました。子ども達主体の活動を考え、数年が経過します。大人（保育士）の主導ではなく、できるだけ子どもたちの考えや発想が反映されるように心がけて取り組んでいました。

実は事前にシナリオができていたものや音楽に合わせ演じていくものとは異なり、子ども同士のかかわりを重視し子ども達で作りに上げていくことは大変、難しいことです。

なぜなら よりひとり、一人の育ちを理解していくことが必要となります。それぞれが何を感じ、どんなことを思っているのか、仲間とのつながりで何を要求しているのか、活動の中で出てきた問題や課題を仲間と考えていく過程など、かかわる大人は子どもの姿から感じ、理解して取り組みを支えていかなければならないからです。

子どもの取り組みは時には気ままに変わることもあり、中断することもあり、その都度、瞬時に保育の計画に反映し修正を図ることも度々あります。子ども達が作り上げていくには、その内容を練り上げていく時間が必要となります。気ぜわしく様々な活動に追い立てられては十分に取り組んでいく時間が保証されません。加えて空間（環境）も子どもたちが十分に扱える



ものにしていかなくてはなりません。劇については演じるだけでなく必要な道具を作ることも大切な活動の一つ、劇が始まり数週間、保育室はさながら工場のように様変わりします。

劇活動では作ることも大きな比重を占めています。

仲間と共に取り組んでいくことの値打ち

人は一人では生きていけない。子ども達も多くの大人に支えられて生きている。子どものコミニティーでも 5歳児ともなれば相手の思いに気持を寄せ、互いに協力する姿も見られる。

近い将来、社会に出ても人との関係性は避けることはできず、より一層つながっていく、よりよく生きていくには人との関係性を幼いながらも体験し学んでいくことが望ましい。

保育園ではその関係性を育み仲間との生活を豊かなものにしていくことを心がけ保育しています。

子どもの生活に必要なもの

先に述べた中で 時間・空間・仲間 は子どもたちの主体的活動の中で必要不可欠なものです。とことん取り組ませてあげられる時間、思う存分、表現できる空間、（空間の中には、いいんだよ 思ったこと、考えたことを存分にやっごらんと肯定された雰囲気を感じられることも大切）共に活動できる仲間、（伝え合える関係、知恵を出し考えられる関係、協力して取り組める関係一緒に楽しめる関係） 仲間の存在が活動のより良い循環を生み出していきます。



時間 空間 仲間 は3間と言われ子どもたちの生活では保証してあげなくてはならないことです。

子どもを中心にすえ、子どもたちの思いを実現するためには日頃から保育者は子ども理解に努め保育にあたるのが必須となります。

不適切保育の横行 児童虐待の露呈

静岡県裾野で起きた園児虐待、刑事告発に至る重大な事件を発端に度々、不適切な保育を行う保育園の報道があります。

なぜ？ どうして？ こんなことが起こるのでしょうか？ ひと昔前、女の子の希望の職業といたら花屋さん、ケーキ屋さん。保育園（幼稚園）の先生、看護婦（師）が上位を占めていました。保育者を目指す子は高校を卒業後、資格（免許）をとれる養成校に通うことになる。

将来の夢をしっかりとつなげ、叶えようとする方が主流である、自らの夢を叶えるための選択をしている。

そんな憧れ、夢の職業についての方が数年で豹変し不適切保育を行うようになってしまう。

そもそも、保育の仕事は全産業の中でぴかいち、ダントツに「人に優しい」職業であるはずである。虐待、不適切保育は肯定されることではなく、あってはならないことですがその要因は実に深い層にあり根本的に見直し是正していかなければならない問題が山積みです。一保育園でできることは限られ、国が率先して保育構造の改革を推し進めていくことも必要と考える。

一保育園で保育士の処遇改善、労務改善など

働きやすい職場を作ろうという意識は高まり、取り組んでいるものの顕著に結果に結びつかない。静岡の一件から国は不適切保育の調査に乗り出し実態を把握し適正な対応の指導を推し進めるわけですが本当の実態を知ることができるのかが焦点になると考えています。

保育士の報酬は全産業中で低いとされている。低いに加え激務となる、待機児童解消策で多くの保育園ができ保育士の不足をまねく、不足を是正しようと処遇改善の手当を国（県、市）が出す。でもまだまだ給料は低い、負の循環、連鎖が続いている。現場も疲弊する、ひとりの保育士が対応する園児数も海外と比べると違いがある。3歳児を例にとると日本は保育士1名で20名の児童を受け持つ（20：1）アメリカ・ニューヨーク州は（7：1）ドイツ、フランスは（13：1）という具合に日本は各段に受け持つ児童が多い、肯定すれば日本の保育者は優秀となるがそれだけ労力がかかり、負担感が増し児童を丁寧に見ることができない環境にあるといえる。

だから 悪しき風潮に管理的な保育（教育）が広がってしまうわけである。ひとりひとりに細やかな応答的な対応など劣悪な労働環境の保育園では夢の話になってしまう。不適切な保育を行う園は保育士の労働環境も不適切であり、保育士自身のモラルの低下も否めない。環境の整備に加え人材の育成、是正改善をやり続けなくては子ども達の未来はない。行政のせいにはできない。一保育園の絶え間ない努力が試され、穏やかな風通しの良い職場づくりが望まれている。

（おおぞら保育園 園長廣部信隆）

